

環境保全のボランティア体験講座 2024 第3回講座レポート

第3回目の講座は7月14日(日)に、環境学習拠点施設である「京エコロジーセンター」と、京都市南部クリーンセンター「さすてな京都」で開催しました。今回は施設見学を中心としたもので、自然環境の直接的な保全だけでなく、自身の身の回りから何ができるかを考えてみて貰うきっかけとする狙いがあります。この日参加の受講生は14名。京阪藤森駅で集合した後、徒歩で京エコロジーセンターまで移動しました。



京エコロジーセンター(略称:エコセン)は、環境にやさしい活動の輪を広げる拠点施設です。「地球温暖化防止京都会議(COP3)」を記念して、建設されました。

エコセンでは、市民に温暖化防止やごみ減量などの環境学習の場とプログラムを提供するとともに、環境教育の実践やセミナー等を通して、地域で環境保全活動を行う人材の育成に力を入れておられます。

案内人は人材担当のオンティ・ハチャン氏(差し棒を持っている人)で、まずは京エコロジーセンターの概要やそこで活動するエコメイトや京エコサポーターといったボランティアの方々の紹介があり、その後3つの班に分かれて施設内を回りました。

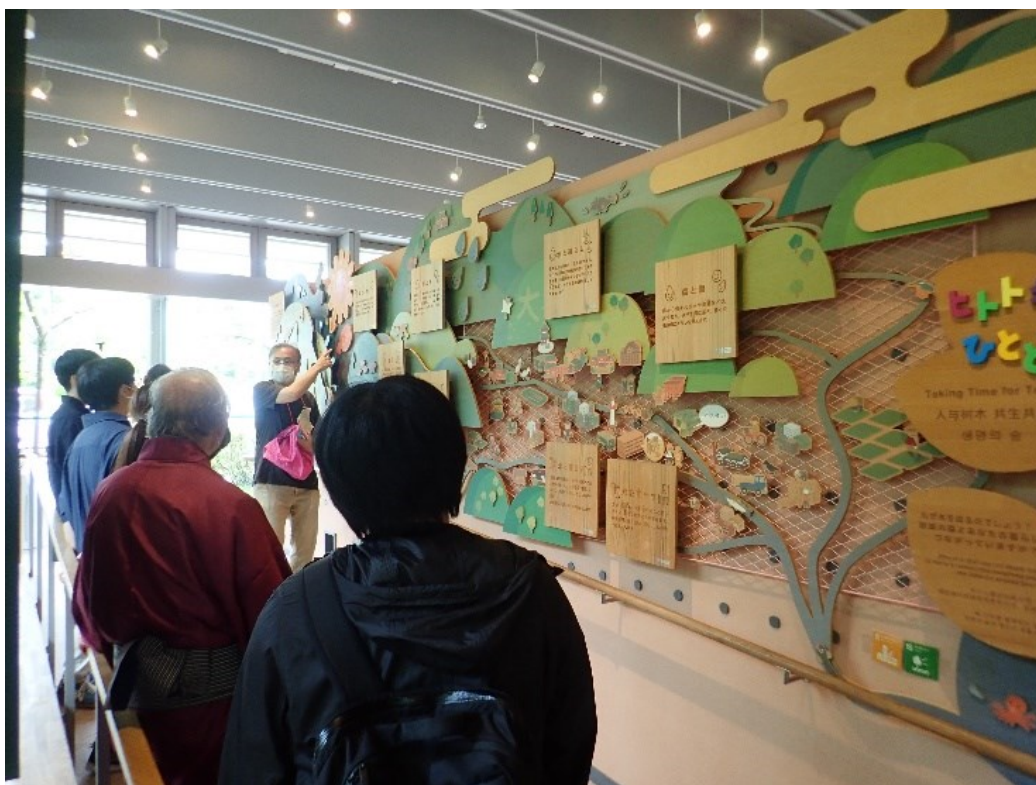


展示物はボランティアの方々に案内してもらいました。
多くの展示物を的確に説明していく姿は、ボランティアの鑑でした。



左下の写真は自転車を漕ぐと発電されるシステムで、白熱電球とLEDを発電するにはどれくらいエネルギーが違うのかを体験できます。こういった体験もしながら学べる施設となっています。





施設の屋上でも、環境に配慮した取り組みを行っています。
 太陽光発電は勿論のこと、風力や雨水の活用までされていました。
 受講生は順番に案内され紹介される内容に、静かに耳を傾けていました。
 受講生の一部からは、「太陽光パネルについて近年は発電効率が上がっているので交換されてはどうか？」といった意見もあがっていました。

また、屋上にあるビオトープや畑などの解説の中で、「最近の子どもは匂を知らないからここで野菜を育てている」という話がでて、受講生は皆驚いた様子で聞いていました。





休憩を挟んでここからはボランティアの方々との対談です。

小一時間、先ほどの班に分かれたまま、それぞれの島で氏名や所属、講座やボランティアの参加動機、興味のある事象や分野、今後楽しみにしていることなどを4つの窓で共有し合って会話に花を咲かせました。

ここでエコメイトと京エコサポーターの解説をしますと、エコメイトは、3ヶ月間の養成講座を受講した後、活動を開始します。任期は3年間。任期修了後は館内でエコメイトをフォローする「京エコサポーター」として活動することもできます。その経験等も話題として出ました。



昼食を挟み、午後からは弊社が用意した車を利用して場所を移動、さすてな京都(ごみ焼却施設)へ向かいます。

右下の写真は京エコロジーセンターを出た時に数名で記念撮影した様子です。



京都市南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」は、ごみ処理施設そのものを活用して整備しています。焼却炉やごみ発電、バイオガス化施設などの迫力満点の大規模施設を間近に見学し、それらを生きた教材として最先端の環境技術を学べます。

我々は動画を数分間聴講したあと、アテンダーさんの案内で施設内を回りました。



施設での現在の発電量をご説明いただいている様子です。紹介パネルが施設内には要所要所に並び、非常にわかりやすくなっています。



ごみを移動させるクレーンがたまたま稼働していましたので、皆さん夢中になって撮影していました。弊社のこの講座でこの焼却工場の見学という内容は以前から開催していますし、下見も行っているのですが、動いているのは今回初めて見ることができました。



下の写真は、バイオガスによる発電の仕組みの解説です。大きなタンク内では長い日数をかけてガスを発生させ発電させる仕組みがあるようです。



下の写真は、アルミを選別する仕組みを機械にコインを通すことで理解できる展示の解説の様子です。
プラスチックのコインなどに対し、アルミのコインはきちんと選別されて出てくる仕組みに、受講生は興味津々でした。



コースの途中で組み込まれている、焼却工場の煙突にある展望塔から見る景色が圧巻でした。昭和の初めに行われた巨椋池干拓による壮大な田園風景などが広がっていました。煙突建物の壁面の一部が廃棄熱で温められてほんのり暖かいという説明を受け、受講生やスタッフは壁に手を当てて温度を調べていました。



最後にまた広報室に戻り、締め動画を見た後、いつものようにアンケートを記入して数名に発表してもらい、感想の共有を行いました。



アンケートでの記述内容としては以下のようなものがありました。

○京エコロジーセンターについて

- ・一見施設の雰囲気からして子供向けなのかなと思ったが、展示や説明の内容を見てみると、やや踏み込んだ内容のものもあって、大学生の自分でも楽しめた。また、エコロジーセンターの名に恥じない、環境配慮の取組みをセンター自体で行っており、感心した。
- ・環境保全(特に二酸化炭素排出に関して)のための様々な設備が取り入れられていた(エコに関する施設がここまであったことを知らなかった)。また、エコについてあまり知らない子どもたちに楽しくその大切さを伝えられるような環境が整えられていて、「知らない人にどう興味をもたせるか」という教育的な面でもとても自身の役に立てたところ。
- ・施設だけでなく、客人を楽しませようとするエコムシやゴミックを用意していて、終わってほしくないと思えるほど楽しめました。4つの窓を使ったボランティアの方々との会話も非常に面白く、いつまでも続いて欲しいとさえ思うほどでした。

○さすてな京都について

- ・ゴミの処理過程の現場を実際に見れてよかった。約3日に1回の頻度で発火事故が起きていると知り、今まで以上にちゃんと分別しようという気持ちになった。アルミとプラスチックの分別の仕方を模擬装置で実演してくれてすごく分かりやすく興味深かった。
- ・最新に近い焼却工場での問題点や人々の認識の推移を見れた。効率よく燃焼させるのは生ゴミや燃えにくい形状の物をどうすればいいか？見学ツアーを通して世の中の人の心がまえがより変わっていく事の大切さも学んだ。
- ・電力をゴミを処理する際に発生するエネルギーで作っている、また、それを売れるくらいであることがすごいと思った。フードロスによる生ゴミが4割もあるということに驚いた。生ごみの大半は期限が切れたり食べきれないものだったり、野菜くずだと思っていたので、意識が変わった。視覚的にとても見易い施設だった。

以上のような回答が寄せられ、自身の身の回りから環境について何ができるかを、改めて考えなおすとともに、意識の変革が生まれるきっかけとなった講座となりました。